

パパ・ママ子育て知恵袋

第45回は「つぶれない子にする」

とにかく生きづらい時代です。

今の状況がある日突然、すっきりと解決するということはありませんでしょう。しばらくは（かなり長い間のしばらくですが……）、生きづらい感じは続くはずですよ。

では、こういう時代に、どんな子に育てればよいかを考えます。毎日繰り返し考え続け、結局、つぶれない子に育てることが一番かと。生きづらさにつぶされない子になってほしいと思います。

ホロコースト（ユダヤ人大量虐殺）の生き残りの女性のお話です。彼女は小学生のときに両親、兄弟、親戚全員をナチス・ドイツに殺されます。世界中が自分たちユダヤ人を殺しにくる、と思って育ちます。

戦後、施設に移った彼女は、そこで調理担当の同じユダヤ人の男性から、特別な扱いを受けます。台所で働く彼のそばにいますと時々ポケットからビスケットを取り出し、周囲に見えないようにそっとくれたのです。それだけの話です。

それだけの話ですが、彼女は「自分が特別な存在になった」と後に語ったそうです。膨大な喪失感を感じる日々でしたが、「ただの親切な人」による親切な行いが「家族はいなくなったけれど自分は無力ではない。他人は私を助けてくれる」という世界観を彼女の中に芽生えさせ、そして彼女は戦後生き延びました。

ちょっとしたこと。どうでもいいこと。そういうことから「人は信じて大丈夫」という漠然とした世界観を獲得することができます。それが人間です。

つぶれない子に育てるには、厳しい子育てよりも「なんとなく人って信じていいんだな」と思わせることでしょう。

こういう時代だからこそ「それでも世の中は捨てたもんじゃない」と思わせることができれば、それで最高です。

※参考「歪んだ正義」大治智子 毎日新聞出版